平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月9日

上場会社名　扶桑薬品工業株式会社　　上場取引所　東 大
コード番号　4538　URL　http://www.fuso-pharm.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 戸田　幹雄
問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務本部長　(氏名) 為房　正信　TEL 06-6969-1131

四半期報告書提出予定日　平成23年11月11日　配当支払開始予定日　平成23年12月6日
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	21,644	△10.1	183	△81.8	△20	—	△63	—
23年3月期第2四半期	24,079	2.3	1,005	561.2	804	—	478	—

(注)包括利益　24年3月期第2四半期　231百万円　(—%)　23年3月期第2四半期　△123百万円　(—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△0.70	—
23年3月期第2四半期	5.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	62,708	25,880	41.3
23年3月期	59,453	26,263	44.2

(参考) 自己資本　24年3月期第2四半期　25,880百万円　23年3月期　26,263百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
24年3月期	—	3.00			
24年3月期(予想)			—	3.00	6.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,040	△5.1	670	△69.1	300	△81.7	200	△82.5	2.21

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	94,511,690 株	23年3月期	94,511,690 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	3,958,460 株	23年3月期	3,952,980 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	90,556,221 株	23年3月期2Q	90,582,427 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧下さい。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 ……2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 ……3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 ……3
２．サマリー情報(その他)に関する事項 ……4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 ……4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ……4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……4
３．四半期連結財務諸表 ……5
（１）四半期連結貸借対照表 ……5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……7
四半期連結損益計算書 ……7
四半期連結包括利益計算書 ……8
（３）継続企業の前提に関する注記 ……9
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度の第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の停滞を脱して回復の途上ながら、ギリシャ危機がグローバルな金融不安へエスカレートの様相で、2008年秋のリーマン・ショック後の信用収縮リスク再現の懸念が浮上する状況となり、景気回復の足取りが乱調のおそれを色濃くしてきております。この間のＧＤＰ（国内総生産）は年度初の４～６月期は３期連続のマイナス成長を余儀なくされております。東日本大震災によるサプライチェーン（供給網）の寸断で、自動車輸出の落ち込みをはじめ、実質ＧＤＰが年率3.6%、生活実感に近い名目ＧＤＰでは5.7%の大幅マイナス成長となりました。サプライチェーンの復旧とともに自動車の反転攻勢の大増産を中心に鉱工業生産指数が震災前の水準に戻る勢いを見せて、７～９月期の実質ＧＤＰが年率で５%増へ急浮上の予測も出たものの、歴史的な高値水準が続く円高の重圧などにより企業収益の悪化を招いており、せっかく上向いた景気を足踏みさせないためにも今年度第３次補正予算の早期実施で“復興需要”による内需の押し上げが求められております。なお、この間の株価は９月下旬には再び日経平均株価が8,359円台の下値を記録するなど期間中に11%の下落、円相場は期初の１ドル83円台から76円台へ８%強の円高となり、対ユーロ相場も117円台から103円台へ11%の円高を記録しており、８月中旬以降は１ドル76円台の歴史的高値水準で膠着したままで輸出関連企業の業績影響が懸念される状況で推移いたしております。

第２四半期連結累計期間の医薬品業界におきましては、平成21年度の国民医療費が前年度比で3.4%増の36兆67億円へ続伸して過去最高記録を更新しております。高齢者増と高度医療技術の進歩によるコスト増が医療費膨張に拍車をかけており、国民一人当たり医療費が若年層を含めて全世代で増えて厚生労働省では15年後の2025年度には国民医療費が52兆円に膨らむと予測しております。注目の高齢者医療費は平成21年度には全体の32.6%を占め、国民所得（339兆円）に占める国民医療費は10.6%と遂に10%台を突破しております。このように国民医療費が膨らむなか、東日本大震災の復興費が嵩むもとでの財政逼迫のあおりを受け、さらに平成22年度からの10年ぶりの診療報酬の増額改定もあり、医療費膨張抑制への薬剤費の圧縮策が更に強化される気運で次回の薬価改定は厳しいものになることが予想されます。このような国内市場の伸び悩みを避けて、経済成長の著しい中国市場への参入（市場開拓）へ大手が顔を揃えており、一方では、国内後発医薬品市場において、外資による業界再編が進む状況となっております。

このような市場環境のもと、当社グループにおきましては、主柱の医薬品事業では、第１四半期決算短信の定性情報でお知らせいたしましたように、東日本大震災で被災の茨城工場の立体自動倉庫の製品落下対処による操業再開までの１ヵ月間の生産停止で製品出荷が大幅減を余儀なくされた透析療法のサブラッド血液ろ過用補充液ＢＳＧの減収、東北・関東エリアの製品物流の混乱による主力製品の供給への影響が表面化しておりましたが、茨城工場の操業の復旧やサプライチェーンの復旧とともに売上高は第２四半期後半にはやや回復し、サブラッド血液ろ過用補充液ＢＳＧの出荷も８月には前年同期比70%水準にしたものの、第２四半期連結累計期間の医薬品事業の売上高は215億７百万円と前年同四半期と比べ24億39百万円（10.2%）の減収になっております。また、不動産事業は比較的安定して営業収入が１億37百万円と前年同四半期に比べ３百万円（2.9%）の増収となっております。これにより当第２四半期連結累計期間の売上高は216億44百万円と前年同四半期と比べ24億35百万円（10.1%）の減収となっております。

一方、利益面におきましては、売上高減少に伴う売上原価と販売費及び一般管理費の占める割合が上昇したことにより収益が抑えられ、営業利益が１億83百万円と前年同四半期と比べ８億22百万円

（81.8%）の減少、経常損益が20百万円の損失（前年同四半期は８億４百万円の利益）、当四半期純損益は63百万円の損失（同４億78百万円の利益）と当初計画を若干上回る損失計上を余儀なくされております。

主柱の医薬品事業におきましては、当第２四半期累計期間は、第１四半期決算短信で開示の定性情報のように、東日本大震災により茨城工場が１ヵ月の操業停止と、東北・関東エリアでの製品物流の混乱もあって殆どの主力製品が前年同期比の減収となりましたが、茨城工場の操業再開、東北・関東の医薬品サプライチェーンの復旧に伴って、８月、９月にはほぼ目標水準に達する売上高の回復を図り、透析療法のサブラッド血液ろ過用補充液ＢＳＧの売上高ペースも８月には70%水準へ回復をみせております。一方、透析施設において、治療時の安全性と利便性に優れた評価の高いミニヘパ透析用シリンジの上市効果を加えヘパリン透析用シリンジ製品が続伸、新型への買い替え需要が進む血液分析器アイ・スタットなど２桁増収の好調製品の寄与もありましたが、当第２四半期連結累計期間の医薬品事業の売上高は215億７百万円と前年同四半期と比べ24億39百万円（10.2%）の減収となりました。一方、不動産市況のデフレ傾向が続くなか不動産事業が比較的順調に推移しており、売上高は１億37百万円と前年同四半期と比べ３百万円（2.9%）の増収となりましたが、当第２四半期連結累計期間の売上高は216億44百万円と前年同四半期と比べ24億35百万円（10.1%）の減収となりました。なお、今年５月31日に製造販売承認申請が行われた㈱スリー・ディー・マトリックス社開発の外科用止血材のＴＤＭ－６２１の独占販売権を持つ当社は、いよいよ迫る承認に備えての体制整備が本格化しており、優れた止血効果と利便性を兼ね備えた新発売製品として広い市場ニーズが期待されております。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末の総資産は、627億８百万円と前連結会計年度末と比べ32億55百万円（5.5%）の増加、負債は368億28百万円と前連結会計年度末と比べ36億38百万円（11.0%）の増加、純資産は258億80百万円と前連結会計年度末と比べ３億83百万円（1.5%）の減少となりました。なお、自己資本比率は41.3%と前連結会計年度末に比べ2.9%の低下となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

当連結会計年度の第３四半期以降の通期の見通しにつきましては、大震災後の業績波乱の回復から正常軌道乗せが経営課題の主眼で、当第２四半期連結累計期間におきましては、ほぼ目標ペースの業績を確保でき、通期目標へ向けて順調な推移が予想されております。なお、薬価改定年度の次期は厳しい市場環境が想定されますが、次年度中には止血材の上市による業績への寄与も見込める期待が出てきております。

２．サマリー情報(その他)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,833	7,258
受取手形及び売掛金	19,042	17,755
商品及び製品	5,318	6,273
仕掛品	82	136
原材料及び貯蔵品	1,063	1,138
その他	764	738
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	30,103	33,299
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,780	8,555
土地	11,344	11,344
その他（純額）	3,942	4,129
有形固定資産合計	24,067	24,028
無形固定資産	201	175
投資その他の資産	5,081	5,204
固定資産合計	29,350	29,408
資産合計	59,453	62,708
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,249	11,439
短期借入金	6,168	6,681
未払法人税等	62	59
賞与引当金	805	812
その他の引当金	434	315
その他	4,573	5,572
流動負債合計	23,293	24,880
固定負債		
社債	350	300
長期借入金	5,384	7,444
退職給付引当金	1,016	1,171
その他の引当金	243	237
その他	2,901	2,794
固定負債合計	9,895	11,948
負債合計	33,189	36,828

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,758	10,758
資本剰余金	15,010	15,010
利益剰余金	6,372	6,037
自己株式	△1,406	△1,407
株主資本合計	30,734	30,398
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2	△52
繰延ヘッジ損益	△54	△51
土地再評価差額金	△4,414	△4,414
その他の包括利益累計額合計	△4,471	△4,518
純資産合計	26,263	25,880
負債純資産合計	59,453	62,708

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
売上高	24,079	21,644
売上原価	17,201	15,643
売上総利益	6,878	6,001
返品調整引当金戻入額	10	1
差引売上総利益	6,888	6,003
販売費及び一般管理費	※1　5,883	※1　5,820
営業利益	1,005	183
営業外収益		
受取利息	6	3
受取配当金	27	29
保険関係収益	10	68
投資有価証券受贈益	45	－
その他	71	43
営業外収益合計	161	145
営業外費用		
支払利息	161	124
その他	201	225
営業外費用合計	362	349
経常利益又は経常損失（△）	804	△20
特別利益		
前期損益修正益	27	－
その他	4	－
特別利益合計	31	－
特別損失		
たな卸資産廃棄損	332	－
固定資産除却損	25	44
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	51	－
その他	0	－
特別損失合計	410	44
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	425	△64
法人税、住民税及び事業税	23	22
法人税等調整額	△75	△23
法人税等合計	△52	△1
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	478	△63
四半期純利益又は四半期純損失（△）	478	△63

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	478	△63
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△213	△50
繰延ヘッジ損益	△33	2
その他の包括利益合計	△246	△47
四半期包括利益	231	△110
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	231	△110
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。